

神奈川県内出土の弥生時代土器棺(4)

—弥生時代中期後葉から古墳時代前期(その3)—

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当研究プロジェクトでは、研究紀要17号より「神奈川県内出土の弥生時代土器棺」についての集成・検討を行い、同18号からは弥生時代中期後葉～古墳時代前期の事例を集めてきた(第1・2図)。

前稿でも触れたように、研究紀要18号では集成した土器棺資料の図を提示し、前回の研究紀要19号ではその集成資料に関する出土遺跡・遺構・土器などの概要解説を行った。今回は、引き続き弥生時代中期後葉～古墳時代前期の土器棺を対象に、前稿以降に刊行された報告書掲載の資料について提示し、既稿の補遺としたい。

概要解説の遺構名の前に付した番号は既稿の集成図及び一覧表から継続している。また第1・2図中の番号は第1表の「文献番号」が示す、それぞれの遺跡に対応している。追加資料の確認と集成は当研究プロジェクトのメンバーが分担して行い、該当資料の挿図作成は戸羽が行った。

今回の追加集成では1遺跡5事例の資料を確認することが出来た。集成結果は第1表にまとめ、第1図に掲載した。図の掲載にあたっては、遺構・遺物の検出状況を縮尺1/60、遺物実測図を縮尺1/8とした。図は報告書掲載のものをコピーして使用し、再トレース等は行っていない。
(渡辺)

県内遺跡の事例

47. 河原口坊中遺跡(第1次調査) P21地区(上り線) YH1号土坑

遺跡は海老名市河原口に所在し、相模川・中津川・小鮎川の三河川が合流する地点の自然堤防上に立地する。標高は21～22mを測る。弥生時代中期から古墳時代前期の堅穴建物跡292軒、掘立柱建物跡7棟、溝状遺構28条、土坑90基、炉跡7基、焼土跡2基、ピット314基、旧河道4条、流路状遺構5条、水溜状遺構1基、杭列2条が検出されている。

YH1号土坑は東側を湧水対策の水切り溝に切られる。上部にYH49号堅穴建物跡が構築されていた。土坑規模は長軸33cm、短軸は残存長で28cm、深さ24cmである。土坑の中層から口縁部を上にして、やや斜めに立った状態で小型の壺が出土している。壺はほぼ完形で、口縁部と頸部に縄文が施文され、無文部分には赤彩が施される。現存高は13.4cm、胴部最大径は8.2cmである。弥生時代中期後葉に比定される。土器棺の可能性がある事例として取り上げた。

48. 河原口坊中遺跡(第1次調査) P24地区(上り線) 遺構外

甕と壺が重なり、潰れた状態で出土していた。調査時には掘り込みなど確認されていない。出土状況を検討した結果、正位の壺の上に正位の甕が重なって出土していたことが報告されている。甕はほぼ完形で口縁部を表裏押捺、胴部を内外面ハケ後ヘラナデ、底部の木葉痕をヘラナデされる。現存高は26.9cm、胴部最大



神奈川県内出土の弥生時代土器棺(4)



第2図 土器棺出土遺跡分布図 後期～古墳時代前期

径は16.6cmである。胴部最大径は壺は頸部を欠損している。頸部および胴部下半は赤彩されミガキが施される。頸部下半～胴部上半にかけて、3本一単位の櫛描横線文に区画された内側を縄文で充填した文様帯が2段施文されている。現存高は21.4cm、胴部最大径は19.7cmである。報告では出土状況から自然作用によるものではなく、土器棺および水辺の祭祀など何らかの人為的な痕跡があったものと推測している。弥生時代中期後葉に比定される。特異な出土事例であるが土器棺の可能性を考慮し、掲載した。

49. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P23地区（上り線） YH4号土坑

土坑は北東の立ち上がり上端部を搅乱によって削平されている。土器棺は、土坑掘り方に沿って大型の壺1/2が横位に据えられていた。さらに確認面および横位の壺南北際から蓋と推測される別個体の大型壺胴部破片が出土している。土坑規模は長軸113cm、短軸88cm、深さ30cmである。棺蓋と考えられる壺は沈線区画内を縄文で充填した山形文が施文されている。棺身となる壺は頸部以上を欠損している。胴部上半にS字状結節文区画によるが施文されており、胴部下半はハケ後、丁寧にナデ消されている。また、底部にはハケが観察され、一部ナデ消されている。現存高は61.2cm、胴部最大径は63.6cmである。弥生時代後期に比定される。

50. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P21地区（上り線） YH10号土坑

調査区壁際で検出されており、大半が遺構外へ続くため遺構の全様は不明である。北側の立ち上がり部分をH1号溝状遺構に切られる。規模は確認できた範囲で長軸145cm、短軸20cm、深さ33cmである。土坑の底面から壺が口縁部を上にして、斜めに倒れた状態で出土している。出土時には口縁部以外にほとんど土が入っていない状況であったことが報告されている。壺は完形で、口縁部は外面ハケ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、胴部は外面ハケ後ミガキによって調整される。現存高19.8cm、胴部最大径18.3cmである。弥生時代後期以降に比定される。土器棺の可能性がある事例として掲載した。

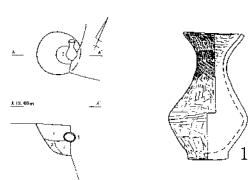
51. 河原口坊中遺跡（第1次調査） P21地区（下り線） YH18号土坑

東側の立ち上がり上部を湧水対策の水切り溝によって切られている。規模は長軸36cm、短軸は残存長20cm、（推定復元32cm）、深さ16cmである。完形の小型台付甕が逆位の状態で出土した。甕は外面を口唇部面取り、口縁部から胴部をハケ後ヘラナデ、内面を口縁部から胴部までハケ後ヘラナデおよび指頭オサエによって、脚部は内外面ともにヘラナデおよび指頭オサエによって調整される。現存高15.9cm、胴部最大径は11.6cmである。弥生時代後期以降に比定される。甕単独の出土であり、土器棺としての根拠はやや希薄であるが、可能性例として掲載した。

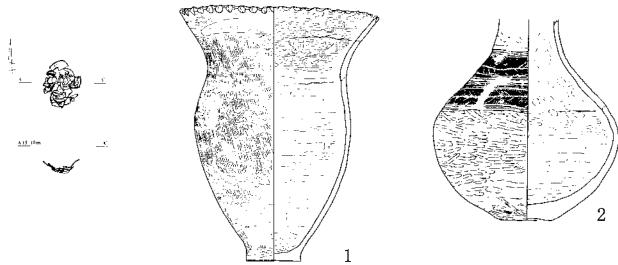
（戸羽）

神奈川県内出土の弥生時代土器棺(4)

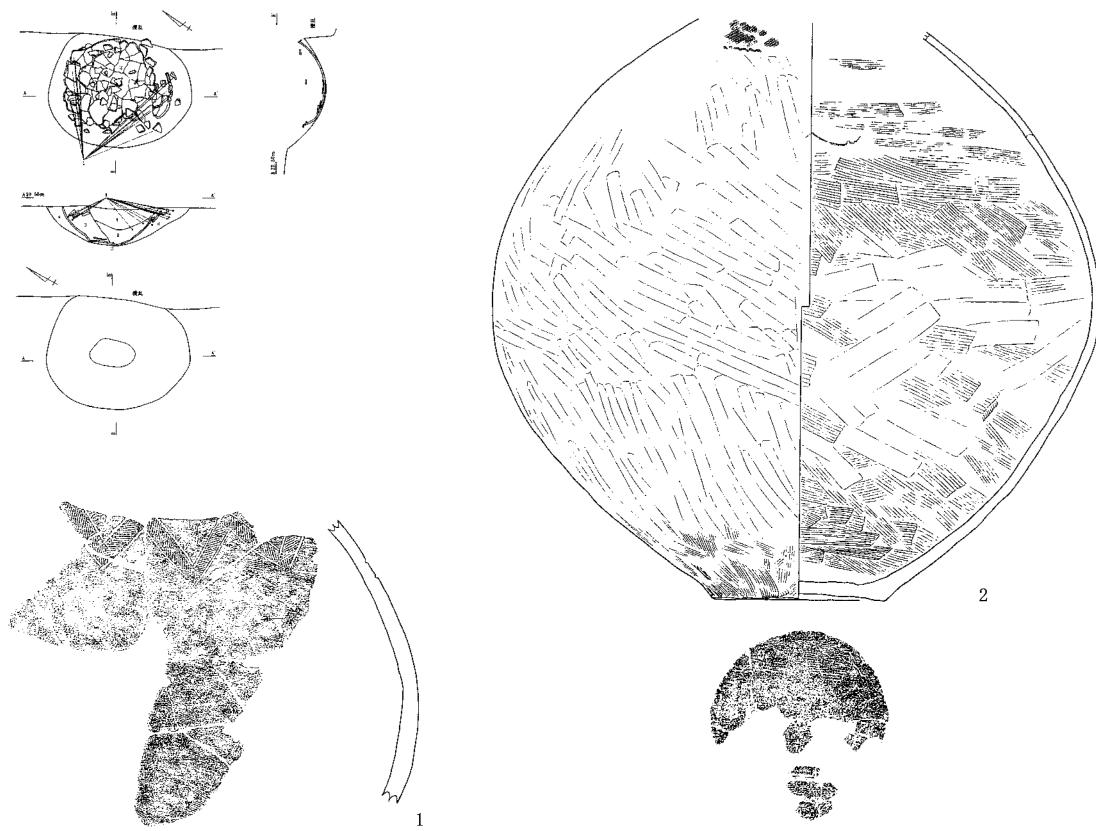
47. P21 地区 YH 1号土坑



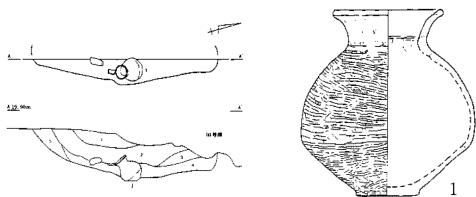
48. P24 地区 遺構外



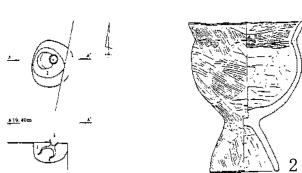
49. P23 地区 YH 4号土坑



50. P21 地区 YH 10号土坑



51. P21 地区 YH 18号土坑



第3図 河原口坊中遺跡(第1次調査) 土器棺関連資料 [遺構図1/60、土器1/8]

おわりに

今回の補遺資料を含め、各資料の出土状況の検討・集成結果についての分析は、次回以降に行うものとする。今回の追加修正に遺漏等があれば、ご指摘・ご教示頂けると幸いである。

第1表 神奈川県内出土土器棺墓集成（弥生時代中期後葉～古墳時代前期）補遺

資料番号	所在地 (市区町村名)	遺跡名	遺構名または出土位置	時期	文献番号
47	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH 1号土坑	弥生時代中期後葉	33
48	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P24地区 遺構外	弥生時代中期後葉	
49	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P23地区 YH 4号土坑	弥生時代後期	
50	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH10号土坑	弥生時代後期以降	
51	海老名市	河原口坊中遺跡 (第1次調査)	P21地区 YH18号土坑	弥生時代後期以降	

※資料番号は第3図中の遺構番号に対応し、文献番号は第2表に対応する。

第2表 文献一覧表 補遺

文献番号	文献（報告書）名	刊行年	編集機関
33	『河原口坊中遺跡 第1次調査』	2014	公益財団法人かながわ考古学財団